



コミュニティ推進協議会設立40周年

課題やニーズに対応した新たなコミュニティづくりへ

日立市コミュニティ推進協議会は、昭和50年の設立から今年で40周年を迎えました。記念行事を開催するとともに、変化する課題やニーズに対応す

るコミュニティづくりのために、新たに委員会を立ち上げ、各種施策の実践成果を検証しながら、今後取り組むべき項目などを検討していきます。

■現状と課題

この10年間で人口減少、少子高齢社会が急速に進み、市民ニーズの多様化に伴い、新たな課題が生じるなど、コミュニティを取り巻く環境は大きく変化してきました。この変化に対応するため、日立市コミュニティ推進協議会は各種事業の検討、協議を行い、市民要望を事業に反映していきます。

行政とコミュニティの「協働」のまちづくり、コミュニティの担い手や後継者不足などの課題についても積極的に取り組んでいく必要が出てきました。

■新たな事業

コミュニティ活動の基本は、学区単会がそれぞれの地域課題に対

応した活動を展開することです。また、単会共通の課題に対応する事業は、全単会の共通認識のもと同じ手法で事業に取り組みます。

- 1 再生資源回収システムの見直し
 - ① 休日拠点回収の最終確認
 - ② 再生資源集積所の立ち当番の見直し

①②の項目について、学区毎に説明会を開催。本格実施は平成28年4月から。
- 2 「敬老会在り方検討委員会」提



活動方針を審議

- 言による敬老会の運営
- 3 健康づくり推進員の組織化
推進員連絡会との連携
- 4 日立市役所新任職員の「コミュニティ活動体験研修」に協力
- 5 認知症の方やその家族への早期診断早期対応に向けた支援体制の構築に、地域包括支援センターと連携して支援するほか、社協のモデル事業としても取り組む

一緒にまちづくりをしましょう！
お問合せ、ご相談は交流センターへ

地区・学区	会長	交流センターTEL
十王	深津 正孝	39-2411
豊浦	立川 伸平	43-5755
日高	志賀 勝弘	42-4050
田尻	大森 健一	42-1552
滑川	遠藤 進	22-1654
宮田	田尻 久	27-6835
中里	石川 諒一	70-8005
仲町	福地 稔昌	21-5564
中小路	矢部 敏晴	22-6483
助川	秋山 竹彦	23-0955
会瀬	柴田 和彦	25-1577
成沢	藤井 正孝	35-5587
油繩子	益子 功喜	38-7531
諏訪	持田 幸雄	33-3841
大久保	作山 英一	34-0535
河原子	鈴木 茂弘	33-3746
塙山	西村 ミチ江	34-5404
大沼	菌部 三吉	35-8329
金沢	泉 聡二	36-3985
水木	佐藤 孝志	52-3225
大みか	村山 達男	53-5211
久慈	五来 健夫	52-0165
坂下	井上 充宏	52-3155

記念事業 式典や講演会、40年の歩み記録

日立市コミュニティ推進協議会は設立40周年記念事業を計画中です。多くの方に参加していただける事業にしたいと考えています。

まちづくりは住民が参画することが基本です。記念誌では変化してきたこれまでのコミュニティの歩みや、現在の各単会での活動などを記録として残す予定です。

記念事業の詳細は、後日、市報等でご案内します。

〈設立40周年記念式典・講演会〉

- ◆開催日時
平成27年11月14日(土)
午後1時から
- ◆場所 日立シビックセンター
- ◆内容
 - コミュニティ活動功労者表彰
 - 活動事例発表
 - 講演会
 - ・演題：あなたが主役でまちが輝く～地域の底力のヒミツ～
 - ・講師：堀尾正明氏
元NHK、現在フリーアナウンサー。『難問解決!ご近所の底力』の司会でおなじみ
 - 各コミュニティのパネル展示

負担軽減と利便性向上 再生資源集積所の立ち当番の見直し

住民の負担軽減と利便性向上のため、平成28年4月から立ち当番者の分別指導が無くなります。回収袋の準備はしますが、分別や袋の補充は各自でお願いします。

住民への説明会は、各学区（地区）ごとに順次実施されます。

<この取組の要点や変更点>

集積所の立ち当番者は、用具の出し入れを行い、分別指導は行わない。

<再生資源集積所の仕組み>

1 用具の配置

集積所の利用者の中で決められた当番者が配置する。

専用袋や看板など、用具類の配置時間は概ね午前7時。

※配置時間は各地域の実情に合わせて決める。

2 資源の排出

資源物は各自が分別して午前8時30分までに排出する。

※専用袋や看板が無い時間に

は出すことは出来ない。

※専用袋が満杯の場合は各自集積所にある予備の袋を補充。

3 市委託業者が回収

資源別の専用車両で回収する。回収後、回収業者が看板と袋をまとめて置く。

4 片付け

当番者が袋・看板を撤去する。※用具類は当日中に片付け、次の当番者に引き継ぐ。

5 不適正排出物の処理

清掃センターへ連絡する。

<ビン分別の変更>

1 一升ビンは色別の専用袋に入れる。（生きビンではない。）

2 化粧ビン、塗り薬ビンは資源物として色別の専用袋に入れる。

創意工夫で回収の負担軽減

平成26年度の市の再生資源回収量は411万6千kg余で、コミュニティ単会に総額2338万円余

が報償金として還元、地域活動や環境保全などに使われています。

負担軽減できれば近くの再生資源集積所は便利です。既に住民の創意工夫で回収用具を考案している集積所があります。（写真参照）

宮田学区荒屋町集積所では、塩ビ製パイプの端材を利用して台座を作り、回収袋が立つようにして缶類・ペットボトルなどを回収しやすくしました。台座はだれでも簡単に組み立て、分解できる優れたもの。収納もコンパクトになり準備や片付けも楽になったと、住民から大変喜ばれています。



このような例を参考に、各コミュニティでも地域の人たちと知恵を出し合って工夫してみましょう。

地域福祉社会の構築へ コミュニティで社協モデル事業スタート

少子・高齢社会の進行とともに、ひとり暮らしや高齢者のみの世帯増加、認知症高齢者のケアなどの対策が急がれるようになってきました。また、今回の介護保険制度改正などを受け、介護予防・日常生活支援総合事業の導入など、行政、各種機関や団体、事業者、住民等が主体となってサービスを充実するなど、地域での支え合いの体制づくりが必要になっています。

日立市社会福祉協議会（市社協）は、これらの状況から、市社協の地区担当制の再構築と共に「地域包括ケアシステム」の構築を目指します。そのため、地区社協の機能を有するコミュニティ単会との連携を、これまで以上に強化しな

がら、地域と共に地域福祉事業を積極的に進めるため、年次的にモデル地区（5地区程度）を「連携強化地区」として指定します。

モデル地区指定は5学区

今年度は仲町学区、成沢学区、大久保学区、塙山学区、水木学区がモデル地区として指定されました。地区の会議等への出席、新規事業や既存事業の充実強化支援、支援を必要とする方への地域の社会資源を活用した課題解決の活動支援などが行われます。

特に塙山学区は「あんしん・安全ネットワーク」の対象者等で、様々な問題を抱えているケースに対応するなど、地区が独自で取り組んでいるケア会議などの地域

ケアシステムの取組を、モデル事業として必要性や課題等を整理し、分析して、地域包括システムの構築につなぐこととなります。

また、コミュニティ毎の特性や自主性を促すため、地区からの提案型の新たな取組について助成し、全市事業展開の研究や実施など、より一層の地域福祉を進め、住民の新たな福祉活動による、助け合い・支え合う地域づくりの模索が始まりました。

〈地域包括ケアシステムとは〉

重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で人生の最後まで自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス（住まい・医療・介護・予防・生活支援）を提供する体制。2025年を目途に構築を目指す。

日立市、消防本部、コミュニティ単会、学校などが連携・協働して災害に備える

4学区合同防災訓練 地震の時の身を守る訓練も

日立市、消防、コミュニティ、学校が協力して、円滑な活動体制を確立できるよう、昨年度に引き続き、4学区が同時に行う合同防災訓練が実施されます。

今年度は、内閣府と日立市の共催による地震・津波防災訓練と合わせての実施となります。

また、訓練内容に「シェイクアウト訓練」が加わりました。この訓練は、地震の際に「まず低く、頭を守り、動かない」という、身を守るための基本的な行動訓練です。その場でできる訓練なのでぜひ多くの方の参加をお願いします。

■実施日

平成27年11月7日（土）



初期消火訓練(昨年度の様子)

■参加学区（地区）

- ・日高学区
- ・中小路学区
- ・大沼学区
- ・坂下地区

■訓練内容（予定）

- 1 シェイクアウト訓練
- 2 情報伝達訓練
- 3 住民等津波避難訓練
- 4 避難所開設及び運営訓練
- 5 各種訓練

（自主防災組織の企画による初期消火、煙道体験などの訓練）

避難所運営関係者の顔合わせ 備蓄倉庫の資機材等の説明会

7月2日から13日にかけて、各小中学校等の防災備蓄倉庫にて、備蓄品や資機材に関する説明会が実施されました。

説明会は、避難所開設・運営に関わる、コミュニティの担当者、学校教職員、避難所担当課職員が参加し、備蓄品や資機材を災害時に適切に利用できるようにすることを目的に、また、相互の顔合



備蓄品の取扱説明

せの意味も含め行われたものです。

当日は、市の生活安全課職員から、備蓄状況や資機材の取扱方法の説明を受け、ホット！ライスの加熱方法や缶入りパンの紹介、簡易トイレの組立方や使用法、ガス発電機の起動方法を確認するなど実践に役立つ内容となりました。

生活安全課では、市内の防災備蓄倉庫内の備蓄品を定期的に点検・管理しています。コミュニティも市と連携を図りながら備蓄倉庫の活用を含め、管理・供給体制を整えていくことが、ますます求められています。

連携協力で、いざという時に円滑な避難所運営ができるよう、このような取組を進めていくことが必要になっています。

日立市健康づくり推進員 連絡会を設置

日立市は平成14年度から、「ひたち健康づくりプラン21」に基づいて、地域で健康づくり活動を担う人材を育てることを目的にした「健康づくり推進員」を養成しています。

今年度新たに43名の健康づくり推進員が誕生、現在、市内23地区において345名の推進員が、市保健師と共に健康運動教室や健康講演会など、健康に関する活動を実施しています。

今後更に、地域における健康づくり活動を促進させるために、推進員相互の親睦を図り、地域と行



設置に向けて各学区で説明会

政が一体となって地域住民の健康の保持増進を図ることを目的に、『日立市健康づくり推進員連絡会』が設置されました。

各コミュニティでも、健康づくりに関心のある方が増えていくよう、今後は『日立市健康づくり推進員連絡会』と連携した活動を進めていくことが必要になっていきます。

今年度から日立市の 敬老会の対象者は80歳から

平成27年度から日立市の敬老会の対象者年齢が80歳からに引き上げられました。昭和11年4月1日までに生まれた方が対象です。

敬老の日を中心に各学区の実行委員会が主催する敬老会が開催されます。詳細は各学区・地区の実行委員会にお問い合わせください。

なお、昨年、対象者であった方でも、80歳未満の方は対象となりませんので、ご容赦ください。



地域の特色をいかした「日立の魅力再発見ウォーク」

17年目を迎えた「日立の魅力再発見ウォーク」は、市民に定着してきました。各コミュニティでは、毎年地域の特色を生かす工夫をして、歴史や自然を巡る魅力的なコースを設定しています。

参加者からは、日立の歴史や自然をより深く知ることができるだけでなく、健康維持や増進、新しい出会いや友だちもできたとの声もあります。コースによっては楽しいイベントもあり、好評で息の長い事業になっています。



今年はどこに行こうか？

平成27年度 日立の魅力再発見ウォーク実施日

学区・地区	実施日	市報掲載
1 諏訪	9月21日(月)	9月5日号
2 会瀬	9月27日(日)	
3 豊浦	10月3日(土)	
4 水木	10月11日(日)	
5 宮田	10月13日(火)	
6 大沼	10月17日(土)	
7 滑川	10月18日(日)	
8 金沢	10月18日(日)	
9 成沢	10月24日(土)	10月5日号
10 油縄子	10月24日(土)	
11 大久保	10月24日(土)	
12 仲町	10月25日(日)	
13 河原子	10月25日(日)	
14 十王	10月31日(土)	
15 田尻	11月7日(土)	10月20日号
16 大みか	11月8日(日)	
17 中里	11月15日(日)	
18 助川	11月17日(火)	
19 坂下	11月21日(土)	
20 中小路	11月21日(土)	
21 久慈	11月28日(土)	

各コミュニティが表彰!受賞!

■中小路学区コミュニティ推進会 (公社)茨城県青少年育成協会から、地域に根ざした青少年育成活動に積極的に取り組み、青少年の健全育成と住みよいまちづくりへの多大な貢献が認められ、表彰されました。(H27.3.26)

■十王地区コミュニティ推進会 日立市から、日立市・十王町合併後の新日立市にあって、地域の融和と一体化に努め、市政の発展に寄与したことが認められ、表彰されました。(H26.11.1)

■河原子学区コミュニティ推進会

■大久保学区コミュニティ推進会

■金沢学区コミュニティ推進会

日立市緑化月間事業「第47回日立市花いっぱいコンクール」で河原子学区が「最優秀さくら賞」を受賞。大久保学区、金沢学区が「優秀賞」をそれぞれ受賞しました。(H26.9.23)

大学と連携 健康をテーマに地域づくり

日立市と茨城キリスト教大学は、平成15年11月に「知と健康の拠点づくり」を共通の目的に、連携協定を締結、大学が有する知識や人材を活用した活動を行っています。

平成17年から、大学の公衆衛生看護学実習で、保健師が担当する保健事業の見学、地域活動に参加して健康保持や増進に関する地域力を把握する実習が行われています。

一例として、各コミュニティが運営している、虚弱高齢者を対象にした「閉じこもり症候群」防止と地域参加を促すことを目的として、保健師、看護師等が指導する「ふれあい健康クラブ」にも参加しています。過日、看護学科の実習の一つとして、

3年生2名が会瀬ふれあい健康クラブで実習、高齢者と一緒に体操やゲームなどを行いました。

平成25年から看護学実習2年



会瀬ふれあい健康クラブで実習

生の授業に、保健師とコミュニティが、「地域住民が健康づくりに参加する意味を問う」で、実践活動を紹介しています。

また、平成27年3月に実施した生活科学部のシンポジウムでは、大みか学区の村山達男会長が活動紹介をしました。

百年塾フェスタ2015 コミュニティは地域の“いいね”を展示

今年も「百年塾フェスタ2015」が10月4日(日)、日立シビックセンターのマーブルホール、新都市広場で開催されます。

このフェスタにコミュニティも『コミュニティの“いいね”パネル展』に参加します。今年には塙山、大沼、金沢、水木、大みか、久慈、坂下の各コミュニティから出展。同時にこれまでに出展した16学区の作品もミニ版で展示されます。日立は海、山など自然が豊かで、各コミュニティでは特色のある暮らしや文化が残っており、独自性のある地域活動も見ることができます。楽しくご覧ください。